

### 1. 黒滝村の農業の概要

黒滝村は、人口937人、世帯数400世帯の小さな村で、奈良県のほぼ中央に位置し、村の総面積の約94%を林野が占めています。豊かな自然と森林資源に恵まれ、昔から杉や桧の生産地として知られており、林業は長い間本村の基幹産業として位置づけられていました。そのため、農業への関心は低く、ほとんどの農家が自家消費分を耕作しているような状態です。農地も少なく、花木の高野槇以外は特に農業による収入はありません。

さらに最近では、高齢化・過疎化が進み、後継者がほとんどいないので、年々農業の担い手が減少しており、農業用地の荒廃や、転用の増加が問題となっています。



## 2. 農業委員会の取り組み

黒滝村農業委員会では、年々増加する遊休農地の解消及び農業の担い手育成のために、こんにゃく芋を推奨作物とし、種芋を購入した方に村より補助を出しています。収穫されたこんにゃく芋は、地元のこんにゃく組合に買いとってもらい、串こんにゃくとして販売されています。

また、平成14年7月より、道の駅「吉野路 黒滝」において朝市の常設をし、村内で栽培された野菜や果物の販売を行っています。新鮮な採れたての野菜ばかりで、村民だけでなく黒滝村を訪れる観光客で賑わい、村の活性化の一翼を担っています。

他にも、有害鳥獣による農産物の被害の防止を図るため、猟友会に依頼し捕獲オリを設置するなど有害鳥獣の駆除を行ったり、畑に防除柵を設置したものに対して村より費用の2分の1の補助を出すなど積極的な農業の促進に取り組んでいます。

現在、農業を取り巻く環境は厳しくなる一方ですが、そのような中でも、農家や農業委員会を中心に、明日を担う農業後継者の育成や遊休農地の解消に努めていきたいと考えています。

